

S13

比較図における空間と光景
ポール・ドゥディス
(ギャローデット大学 [アメリカ])

要旨

アメリカ手話で二つの概念を比較する際、発話者は自分の前の空間を左右に分けてそれぞれの概念を示すことがある。このような様式化された空間利用は、Winston (1996) が「比較図 (comparative map)」と呼んでいるもので、概念に対して空間的実在を与えるものである。手話言語学の研究成果の中で報告されているアメリカ手話の比較図の例 (Janzen 2012; Liddell 2003 など) としては、比較図内の場所を発話者が指さしているものが挙げられる。Janzen は、この場所が実在・空想上を問わず物理的世界の中の場所に対応するものではないことを根拠に、この場所を抽象的なものと述べている。Liddell は、この場所のことを、概念に対して「物理的な類似性をまったく持たない」トークンであると述べている。この観点から言うと、比較図とは、きわめて有契性の低い空間利用である。一方、Liddell (2003) が「代用空間 (surrogate space)」や「描出的空間 (depictive space)」と呼んでいるような、世界のどこかに必ず存在するひとつの三次元的光景を空間的に表現するような空間利用は、有契性が高い。

しかしながら、エリシテーションによらないアメリカ手話の発話においては、空間の左右が三次元的光景を表現するために利用されている例が観察される。そのような例は、比較図の様式のみならず、抽象的空間と光景表現の構造をも理解するうえで、よい機会を提供してくれる。本発表では、認知文法の枠組みの中で用いられる「概念祖型」(Langacker 2008) をはじめ、比較図を研究するうえでの理論的観念について論じる。概念祖型とは、「日常生活で頻繁に現れ、日常生活の基盤をなすような、経験に基づく概念」である。たとえば、物理的な物、人間の身体、何かを手に握ることなどが挙げられる (Langacker 2008: 33-34)。Wilcox (2002) はトークンのことを「ビリヤード玉モデル」と呼ばれる概念祖型を契機とする「仮想的な物」と述べている。ビリヤード玉モデルとは、「複数の物体が、物理的にぶつかり合いながら空間を移動していく概念」である (Langacker 2008: 355)。この概念に、世界との身体的相互作用を通じて、実体を与えられる。比較図の実際例に現れる抽象的な物体は、光景から抽象化されたものと考えられる。この見方をとれば、あらゆる空間利用は有契的であり描出的であると考えられることができる。これは、あらゆる描出が「他者が光景を想像する際に利用できるように人が演出する物理的光景」であるとする、Clark (2016) の「演出理論 (staging theory)」と軌を一にするものである。

参考文献

- Clark, Herbert H. 2016. Depicting as a method of communication. *Psychological Review* 123.3: 324-347.
- Janzen, Terry. 2012. Two ways of conceptualizing space: Motivating the use of static and rotated vantage point space in ASL discourse. In Barbara Dancygier and Eve Sweetser (eds.), *Viewpoint in Language: A Multimodal Perspective*. Cambridge: Cambridge University Press, 156-174.
- Langacker, Ronald W. 2008. *Cognitive Grammar: A Basic Introduction*. Oxford: Oxford University Press.
- Liddell, Scott K. 2003. *Grammar, gesture, and meaning in American Sign Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Wilcox, Sherman. 2002. The iconic mapping of space and time in signed languages. In Liliana Albertazzi (ed.), *Unfolding Perceptual Continua*. Amsterdam: Benjamins, 255–281.
- Winston, Elizabeth A. 1996. Spatial mapping in ASL discourse. In *CIT Proceedings: Assessing Our Work: Assessing Our Worth*. 11th National Convention, Little Rock, Arkansas, edited by David M. Jones. Northridge, CA: Conference of Interpreter Trainers, 1-21.